

Syllabus Id	syl.-060353
Subject Id	sub-060004610
作成年月日	2006年2月11日
授業科目名	ドイツ語 A ( German IA )
担当教員名	大久保清美
対象クラス	電子制御工学科4年生
単位数	2学修単位
必修 / 選択	必修
開講時期	前期
授業区分	語学
授業形態	演習
実施場所	電子制御工学科棟2FD4HR

### 授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

近年のヨーロッパ統合の動きに伴い、世界におけるヨーロッパの重要性はますます高まってきている。中でもドイツは、地理的のみならず、政治的・経済的にも欧州連合(EU)の中心である。したがってドイツ語は、ヨーロッパにおいてはコミュニケーション言語としての重要性も高めてきている。しかし、ヨーロッパから遠く離れた日本においては、ドイツ語のコミュニケーション言語としての需要は少ない。したがって、日本におけるドイツ語教育はむしろ、ドイツあるいはヨーロッパの民族・文化・生活様式等に対する理解に重きを置くべきだろう。ドイツ語との出会いは異質な世界との出会いである。学生が授業で出会う異質な世界をよく理解し、異質な世界との取り組みから自分自身の世界をさらによく理解するならば、すなわち学生の経験の地平が広げられるならば、それはまた学生の人格形成に寄与する

### 準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

ドイツの作家の本、ドイツ・オーストリア・スイスに関する本を読む。テレビでドイツ・ヨーロッパに関する放送を見る。NHKテレビ・ラジオのドイツ語講座で学習する。

学習・教育目標	Weight	目標	
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成	
D:コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力			

### 学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

### 授業目標

外国語としてのドイツ語(DaF)教授法分野で上記「授業の概要」で述べたような考えに基づいて1980年代後半から発展してきたのが「異文化間コミュニケーション・アプローチ」(Der interkulturelle Ansatz)である。本授業においても、この教授法が重視する「テーマ・内容」を授業の中心に据え、その各々についてドイツ事情と日本事情とを比較することにより、異文化理解・自文化理解を深め、説明できることを目標とする。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第2回	ドイツ語はこんな言葉です	・ドイツ語の歴史 ・ドイツ及びドイツ語圏の国々	
第3回～4回	アルファベートと発音		
第5回～9回	Lektion 1: Guten Tag in Muenchen	・疑問詞 ・動詞の現在人称変化 ・定形の位置 ・seinの現在人称変化 ・疑問文中の動詞の位置 ・接続詞 *数詞 ・学問名 ・国名と言語名 ・スポーツ名と楽器名	
第10回～14回	Lektion 2: Klaudia geht in die Stadt	・名詞の性と冠詞 ・否定冠詞kein ・habenの現在人称変化 ・所有冠詞 *1格と4格の用法 ・否定の仕方 ・いろいろな挨拶	
第15回	前期中間試験		×
第16回	ドイツ歌曲	ドイツ歌曲を聴く・歌う	
第17回～22回	Lektion 3: Eine Wohngemeinschaft	・不規則動詞の現在人称変化(1)(2) ・duに対する「願望・依頼」の表現 ・名詞の複数形 * Michaelのアパート	

第23回	ドイツ現代史	・ナチズム ・冷戦 ・ベルリンの壁 ・ドイツ再統一	
第24回～29回	Lektion 4: Eine Reise nach Salzburg	・分離動詞 ・不規則動詞の現在人称変化(3) ・dieser と welcher *時刻の言い方 ・ドイツの鉄道路線	
第30回	前期期末試験		×
<b>課題</b> 成績不振者に対し、ドイツ現代史に関し「特別課題レポート」を課することがある。 オフィスアワー:月曜日15:00～16:30			
<b>評価方法と基準</b> <b>評価方法:</b> 原則として2回の試験の合計で評価するが、成績不振者については、受講態度(ノート検査等)及び特別課題レポートを加味して評価する。 <b>評価基準:</b> 前期中間試験50%、前期期末試験50%、(特別課題レポート:最大10%、受講態度(ノート検査等):最大10%)			
<b>教科書等</b>	ハロー・ミュンヒェン、関口一郎、白水社、2100円		
<b>先修科目</b>	英語		
<b>関連サイトのURL</b>	東京ドイツ文化センター <a href="http://www.goethe.de/tokyo">http://www.goethe.de/tokyo</a>		
<b>授業アンケートへの対応</b>	コミュニケーション能力養成のためにペア練習は多用しているが、時には机の配置を変えるなどして、グループ学習の時間をもう少し増やしたい。		
<b>備考</b>	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ		